大権現忠国（島津忠国）像

【所　在　地】鹿児島市吉野町 9698 －１　尚古集成館（鶴嶺神社所有）
【種　　別】県指定有形文化財（彫刻）
【指定年月日】平成７年４月 12 日

島津家歴代当主を祭る鶴嶺神社に伝わるこけし状の簡素な一木造りの神像で，社伝によれば，明応６（1497）年島津忠昌が祖父忠国の霊を祭るために建立した小城権現社の御神体であったという。眉・目・髭・冠・頭髪・束帯のうしろを墨で，口・襟・袖口を朱で塗っただけの簡素な造りであるが，気品ある神像としての雰囲気を持っている。また像底には「三ヶ国之大将大権現忠国　明応五年ひのえたつ閏二月吉日　於鹿児島座守御坊ニテ被奉作」という墨書がある。鹿児島座守御坊は諏訪神社別当寺安養院のことと推測され，小城権現社創建に当たり，忠昌があらかじめ安養院に神体の木像を調製させたのであろう。

像主の忠国は，嘉吉元（1441）年，将軍足利義教の命により，その弟義昭を日向国櫛間（現宮崎県串間市）で討っている。忠昌は，明応６年，居城清水城の東隣に自らの菩提寺興国寺を，さらに稲荷川を挟んだ高台に祖父忠国を祭った小城権現社を創建した。さらにその子忠治は興国寺を移し，その跡地に義昭の菩提を弔らうため大興寺を建てている。本像も義昭の怨霊を鎮めるために製作されたのではないかと考えられている。